

宝のえにしに平幡八

(市内の貴重な文化財や自然などを紹介します)



地区の公民館分館から神社へ寒風に耐えて歩く老若男女
(撮影・平成23年1月)



出発前の神事



大神宮へ奉納

寄木裸参り (松尾寄木)

保存伝承団体 松尾寄木・寄木裸参り保存会 (代表・高橋巳之吉)

寒中に難行苦行することで無病息災、家内安全、五穀豊穡を願い神仏の加護を得ようとする裸参りは、古くから各地で行われてきたようです。寄木では、享保年代(1716~)の数次にわたる岩手山の噴火を恐れ、これを鎮める祈願として始まったといわれます。市の指定無形文化財である平笠裸参りと同時代と思われるが、創設年代などを特定できる資料は残っていません。現存する最古唯一の資料は、大正15(1926)年1月16日の参詣記念写真で、「南寄木裸体参詣講中一同」として参加者70人の名簿が添えられ、大神宮(通称・お伊勢さん)に保存されています。戦後は途絶えていましたが昭和57(1982)年、老人クラブや婦人会、青年会や消防団など地域の有志が中心となり、古老からの聞き取りや平笠裸参りを参考にして43年ぶりに再興され、現在に至っています。

大神宮の例祭である厳寒期の1月16日、老若男女ともに白の下着に胴巻きしめ縄、白足袋に草履掛けで参加します。出発は地区全域からの参加を期待して南寄木、北寄木、新田の3地区持ち回りにしています。出発式の神事で供え物を洗い清めてもらい、悪霊が入らないように口紙をくわえ、幟、餅、燭台、酒樽、米俵や神の依代となる「ハサミ」と呼ばれる白紙を挟んだ板状の竿を持ち、ほら貝を先頭に地区の分館から大神宮までの最長約1キロを練り歩きます。大神宮では神官の先導で祝詞をあげて参拝、地域の安全や無病息災、五穀豊穡などを祈ります。この日は正月飾りを燃やす「どんど焼き」も行われ、境内は地区の老若男女で賑わいます。(文・市文化財保護審議会委員 畑 謙吉)

- 《参考文献》
- ・「西根町史」(1986) 西根町
 - ・「松尾村史」(1989) 松尾村
 - ・「広報まつお縮刷版-2」(1989)

【広告】 この広告は、広告主の責任において市が掲載しているものです。広告の内容について市が推奨などをするものではありません。

日帰り
白内障手術
応需

にしね眼科クリニック

休診日 木曜午後・土曜午後・日曜・祝日

TEL.0195-70-2711

〒028-7111 岩手県八幡平市大更第24地割29-1

ホームページ
<http://nishineganka.lolipop.jp/>

診療案内	受付時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
	8:30~12:00	●	●	●	●	●	●	△
	14:30~17:30	●	手術	●	△	●	13:00 まで	△

※広報はちまんたい1月10日号(No.165)の印刷経費は1部41円、発行部数は10,400部です。経費の一部は広告料で賄われています。広告掲載については、市役所市長公室(☎・内線1213)まで。

この広報は森林認証された紙を使用しています。

